

SYOHEI ニュース 令和8年4月号

病院等経営強化プラン・その8 点検評価結果について

市医療局では、経営強化プランの実現に向けて毎年度その実施状況の点検と評価をしています。令和7年10月に開催した医療政策や医療経営などの有識者で構成される**奥州市立病院・診療所経営強化プラン運営評価委員会**において、令和6年度の取組について次のような評価を受けました。

<数値目標と実績>

令和6年度実績

医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指標	目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)
医師数	27人	25人	92.6%
入院患者数	33,540人	32,821人	97.9%
外来患者数	119,595人	116,451人	97.4%
救急車搬送者数	940人	1,234人	131.3%
救急患者受入数	1,580人	1,575人	99.7%
訪問診療件数	1,531件	1,288件	84.1%
訪問看護件数	6,900件	6,769件	98.1%

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まない

経営指標に対する数値目標

区分		目標	実績	
収益改善に係る目標	経常収支比率	90.1%	86.9%	
	医業収支比率	64.6%	62.7%	
	修正医業収支比率	59.6%	57.4%	
	累積欠損金比率	77.3%	81.1%	
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院	91.9人	
		外来	492.2人	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	36,713円	
		外来	10,175円	
経費削減に係る目標	病床利用率(稼働病床)	56.7%	55.5%	
		材料費	18.5%	17.4%
		委託費	20.9%	21.2%
		職員給与費	100.3%	98.4%
経費の安定化に係る目標	常勤医師数	27人	25人	
		常勤看護師数	153人	142人

<運営評価委員会からの意見と評価>

- 救急車搬送の受入れが向上している点を評価する。不採算部門と言われるが患者増に繋がる。救急車の受入れを更に頑張ってもらいたい。
- 病床利用率が上昇している点は経営努力の成果を感じるが、70%は必要。夜間救急を断らないこと。
- 地域連携パスや関係機関連携会議への参加により入院患者も増えている。
- 総合水沢病院の稼働病床数は少し多いのではないかと。
- 新たな地域医療構想に向け、総合水沢病院では高齢者救急に力を入れてほしい。そのためには今の医療提供体制の再検討が必要。

- 衣川診療所の遠隔診療は機材を有効活用し他地域への利用も検討してほしい。
- 10対1看護を行っている場合は病床機能の転換検討や看護体制の工夫をすべき。
- 検査の集約化が効率化に繋がると良い。
- 一般会計からの繰出金がかかなりある。この状態が続くと市も病院も破綻しかねないので、経常収支を赤字にしないことが必要。
- 経営改善には職員の意識が大切。皆が同じ方向を向き、収益を確保する手法にしっかり取り組む努力を。

市立医療施設における医療機能・規模の最適化の在り方について

人口減少や少子化による医療ニーズの縮小、医療人材の不足に備え、持続可能な医療提供体制構築を図ることは市立医療施設にとって重要かつ喫緊の課題となっています。

また、施設ごとの経営努力のみならず、医療局全体としての抜本的な改革がより一層重要となっており、医療局では、今後の市立医療施設の在り方についての検討を進めています。

令和8年1月に開催した運営評価委員会では、病院と診療所のグループ化、医療技術職の集約化、医療機器の共同利用などについて話し合い、次のような意見が出されました。

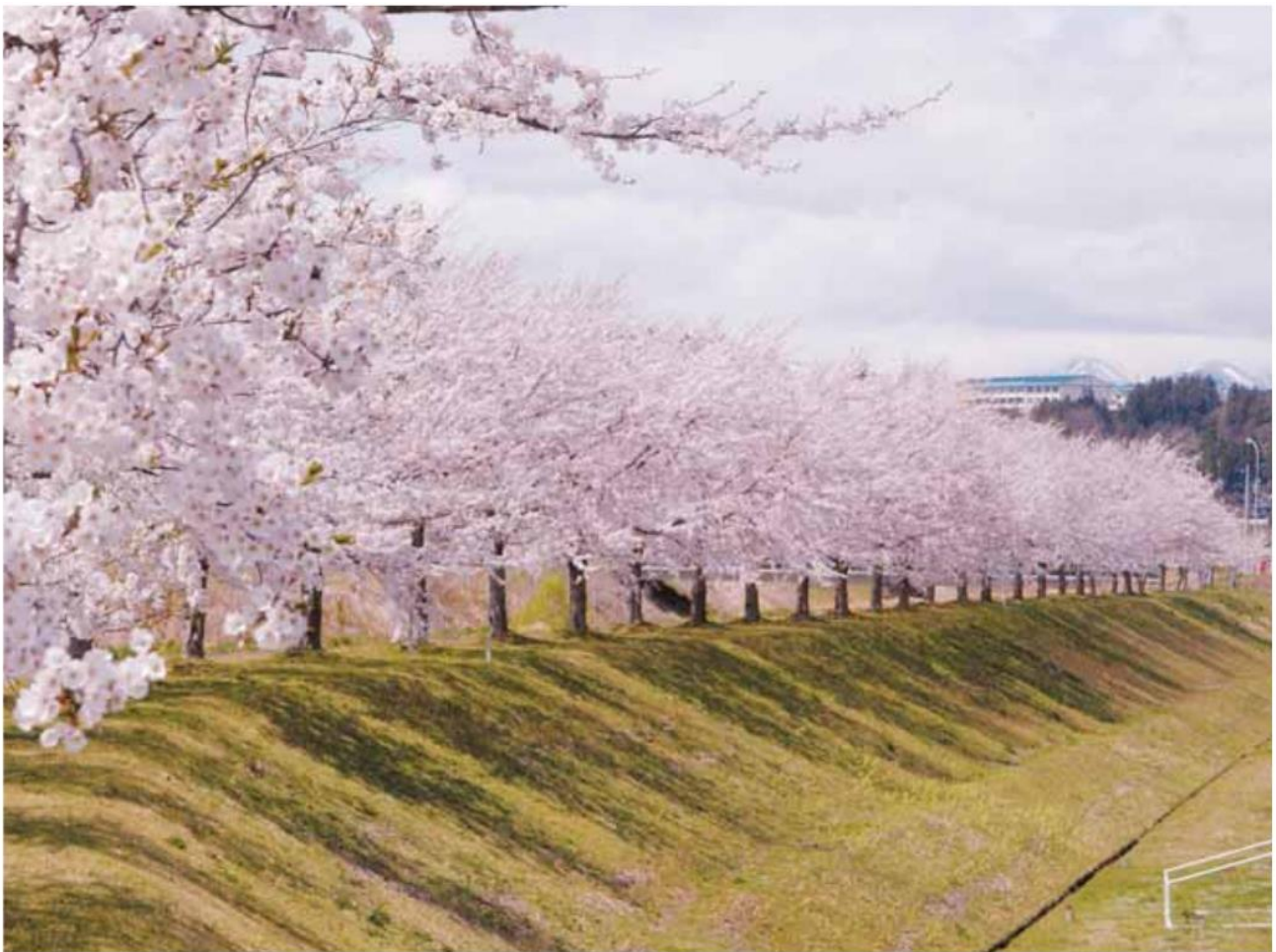
- 医療施設の再編は、基幹病院（県立胆沢病院）へのサポート体制も含め、医療圏として考えるべき。
- グループ化については2グループからのスタートだが、早めに1グループにできるよう検討を。
- 高額医療機器は集約し、施設間の行き来や搬送体制の検討に注力した方が良い。
- 診療報酬の請求漏れが起こらない体制検討を。
- IT関係の人材確保や育成が必要。

<今後の取組について>

取組状況については、毎月各施設で確認検証をしたうえで3か月ごとに医療局内での点検を実施し、成果と課題を確認して継続的な改善活動に繋がっていきます。

市立医療施設の在り方については、運営評価委員会において引き続き検討を深めていきます。

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和8年3月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第72号



満開の桜並木が春本番を告げる

『奥州遺産No.19 平成24年4月号から』

前沢いきいきスポーツランド沿いに流れる岩堰川^{いわぜきがわ}。その堤防の一部に桜つつみ公園がある。うららかなこの季節、同公園では鮮やかな桜が咲き誇る。

平成11年に堤防の強化と景観の整備がスタート。堤防の左岸に110本、右岸には66本の桜が植栽される同公園は14年に完成した。阿部館橋^{あべたてはし}を中心に、上流の岩堰橋から下流のまで目呂木橋^{もくろぎばし}まで、全長約800㍍の見事な桜並木が連なる。今では、古くからの桜の名所・お物見公園とともに新たな花見スポットとして注目が集まる。

桜の季節のみならず、1年を通じて多くの人々が足を運び、ジョギングやサイクリングで爽やかな汗を流す。

桜並木を歩くと川面を渡る心地よい風が頬をなで、近くの前沢中学校から、はつらつとした生徒たちの声が響く。ことしも桜の蕾^{つぼみ}は、人々の訪れを期待してふくらみを増す。

